

「和解の務め」音信

(18-2)

July 2018

Ministry of Reconciliation in South Africa

金煥・朴貞玉



三位一体の神の御名を賛美いたします。今年も上半期がそろそろ終わろうとしております。今、南アフリカは冬の入口に来ております。5月までの生活と働きをご報告いたします。

1. 多くの葬儀

この頃は不思議に多くの葬儀がありました。実は去年の11月には小生の神学校同期生の小林高德先生の突然の悲報に接し、びっくりするばかりでした。その1年前に先生の学長就任のお祝いの会と小生の歓送会を同期生たちが用意してくれたのですが、1年あまりでそういつたことが起こり、悲しみと戸惑いを深く覚えまして。こちらの改革派教会も高齢化が進み、この1年半の間、7回の葬儀がありました。その一つは私たちに良い理解と関心を見せてくださった区域長老の葬儀でした。

今年3月13日には同じパウロ宣教会所属の45歳の若い宣教師が突然の心臓麻痺で急死。啞然としました。その1週間前、南アフリカを離れるある婦人宣教師を空港で一緒に見送りました。そして3月30日受難日には交通事故で天に召された別の婦人宣教師(53歳)の悲報に接しました。なぜ? どうして? 悲しさと戸惑いが胸いっぱいでした。それから影響を受けたのでしょうか、その後の一ヶ月、ずっと気持ち落ち着かず、行動が中々思う通りにいきませんでした。

2. 家内の復帰

そのようなスランプから脱出したきっかけは、やはり家内の復帰でした。医者から定期的に薬を使用し、病院に通うとそれ以上の悪化は阻止され、一般生活に問題がないということを知り、家内は5月3日復帰することができました。その間の皆様のお祈りとご配慮を心より感謝いたします。実は4月中旬に復帰したかったのですが、中々航空機の座席が取れず、やつと5月2日夜1時、羽田空港出発、3日ケープタウン到着のチケットを得ることができたのです。私は5月2日に、今までやらなかった部屋の掃除に少し汗を流しました。



(復帰後の朴夫人の様子)



(同僚宣教師の天国歓送会)

3. 信仰の友人との祈祷会

20数年前、小生たちがポチエフストロムに滞在していた時、私たちに親切にしてくれた家族がおりました。ご主人(Dr. Herman Geyer)はその大学の教授で、奥さん(Eleanor)は祈り深い人でした。特に家内とその奥さんは信仰の友達となり、親しい交わりをしておりました。しかし、そこを離れてからは2、3回の手紙の交換があったのみで連絡が閉ざされてしまいました。南アフリカに戻って来て彼らを探しましたが、居場所を探り出すことができませんでした。しかし、知り合いを通して、もしかしたら彼らがステレンボッシュ地域にいるかもしれないと聞かされました。調べてみた結果、ご主人がこちらの大学に移って教授をしており、住まいもストランド(Strand)という近い場所だということになりました。もちろん、再会の喜びを味わいましたが、これこそ奇跡だと思わざるを得ませんでした。今、ご主人は大学の仕事でできませんがその奥さんと私たちは毎週木曜日午前中、聖書研究と祈祷会をもっています。



(シモンディウ村の子供たち)

4. 祈りの課題

幾つかの祈りの課題を申し上げますので、執成しのお祈りを宜しく願います。

- ① 私たち夫婦が聖霊充滿になつて最善を尽くして福音宣教に励むことができるように。
- ② 「和解の宣教集会」の発展のために。
- ③ 敬虔訓練と宣教奉仕に献身した人々が集められるように。
- ④ アフリカ全体の福音化と福祉が進められるように。

皆様のお祈りとご支援によって私たちの奉仕が支えられています。いつも主の平安が皆様に豊かに臨まれることをお祈りします。ありがとうございます!